

城模型作家の長谷川進さんが白石城の模型を市に寄付 白石城で展示・公開中!

城 模型作家の長谷川進さん(東京都荒川区)が段ボールなどで作り上げた白石城の模型を、白石城で展示・公開しています。

長谷川さんは、10代からマッチ棒と紙を使った城の模型制作を開始。その後、廃品の段ボールを材料に作品制作に取り組み、これまでに鶴ヶ城や弘前城、犬山城、岡山城、松本城、広島城など数多くの模型を作り、自治体などに寄付されています。

白石城は、実際に5回足を運んで約3カ月かけ、実物の約45分の1サイズ(高さ55cm、幅80cm)の模型を作り上げました。長谷川さんの城づくりのこだわりは、市販本を参考に自分で図面を描き、材料費を抑えるため、段ボールや100円ショップなどで購入した木材などを利用し、展示してくれる所に無償で譲ることだそうです。

長谷川さんは、「木造で復元された福島県の小峰城や宮城県の白石城に興味があり、実際に足を運び作品を作りました。白石城は定年後に時間に余裕ができたので1日5時間くらいかけて、集中して城づくりを行いました。作る工程が分かるように、あえて色を塗らずに作成。城に入る階段や野面積みの石垣は、ヒノキを一つ一つ丁寧に削って張り合わせました。東日本大震災で小峰城や白石城も被災。小峰城をJR白河駅に、白石城を白石市に寄付することができて、とてもうれしいです。多くの方々に見てもらうことで、少しで

も被災地が元気になっていただければ」と話してくれました。

長谷川さんの作品は、白石城1階に展示・公開しています。温かみのある白石城の模型を、皆さんぜひご覧ください。

※白石城への入館は入場料が必要です。

◎白石城管理事務所 ☎24-3030



片倉小十郎公のまち白石を「ポチ武者こじゅーろう」の着ぐるみでPRして!

市民団体「ポチ武者わっしょい」が「ポチ武者こじゅーろう」の着ぐるみを市に寄付! 市では、市のキャラクターとしてさらに活用したいと考え、皆さんからのご意見やご提案を募集します。

◎企画情報課 ☎22-1324 ☎22-1451

E-mail kikaku@city.shiroishi.miyagi.jp

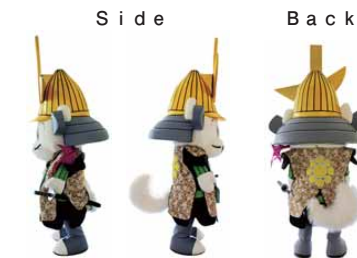
2月14日、片倉小十郎公のまち白石をPRしたいと活動を行っている市民団体「ポチ武者わっしょい」から、「ポチ武者こじゅーろう」の着ぐるみが市に寄付されました。

「ポチ武者こじゅーろう」は白石城主片倉小十郎公をモチーフに発案されたキャラクターで、鬼小十郎まつりを盛り上げたいと市民の方が平成20年にイラストを作成。片倉小十郎公は「忠義」の武将であったことと、白石市を「おもしろく」盛り上げていきたいという願いから「忠義に篤く尾も白い」→「忠犬」のキャラクターが誕生しました。

また、平成22年には着ぐるみが完成。これまで鬼小十郎まつりのマスコットキャラクターとして、鬼小十郎まつりやさまざまなイベントに参

加し、活躍してきました。

市では、「ポチ武者こじゅーろう」が一定の知名度を持ち、これまでも活躍してきたことから、市のキャラクターとして位置付け、さらに活用していきたいと考えています。そのため、「市のゆるキャラにして」「こんな活用をしてはどうか」などのご意見やご提案を募集します。ファクスまたはメールで皆さんの声をぜひお寄せください。お待ちしております。



小中学生17人と1団体を顕彰 吉見教育基金顕彰事業顕彰状授与式

ス ポーツや芸術で顕著な功績を上げた小中学生をたたえる「平成24年度吉見教育基金顕彰事業顕彰状授与式」が3月10日、ホワイトキューブで行われました。この基金は、平成9年に解散した和洋裁学校「吉見学園」の理事長を務めていた吉見たけさんから、「子どもたちの教育に役立ててほしい」と寄付された現金を基に設立。顕彰状を授与された方は次の通りです。

■被顕彰者(敬称略)

●個人(スポーツ部門)

白石第一小: 氏家透也(新体操)・森藤仁(空手)、白石第二小: 土田優太(スキー)、福岡小: 真柄昂世(水泳)・南部武人(新体操)・中村倅青(テニス)、小原中: 小室幸奈(バタンク)

●団体(スポーツ部門)

白石中水泳部: 高橋杏花、奥山真衣、茂木蜜、戸羽日和子(リレー)

●個人(芸術部門)

白石第一小: 高橋舞衣(書)、白石第

二小: 真壁和(書)・大庭佳鏡(書)・大橋輝久(ピアノ)・梶川友寧(書)、齋川小: 佐藤瑠依(ポスター)、深谷小: 佐藤健成(画)・志村美紅(画)・安彦祐来(画)、東中学校: 大浦未来(ポスター)



1_賞状を受け取る「第3回日本バツハコンクールin SENDAI」小学1・2年部門Aコースで優秀賞を受賞し全国大会に出場した大橋くん 2_御礼のあいさつをする「第61回宮城県中学校総合体育大会水泳競技会」400mフリーリレー女子で1位に輝いた白石中代表の高橋さん 3_記念撮影する児童や生徒たち

玄そばを冷水や寒風にさらし、うま味凝縮! 「寒ざらしそば」をご賞味ください

そ ばの実「玄そば」を蔵王の冷水や寒風にさらし、うま味を引き出す「寒ざらしそば」の試食会が3月14日、検断屋敷で行われました。この日は、小原地区活性化推進協議会や地元団体など約40人が、寒ざらしそばと通常のそば粉で打った二八そばを食べ比べ。試食をした関係者は、「喉ごしがとてもいい」などと話していました。

寒ざらしそばは白石興産(株)が企画し今年で10年目。1月21日、白石スキー場の北約6km、標高900mの溪流で仕込み作業が行われ、八宮農業生産組合が育てたそばの実「玄そば」540kgを、立春の2月4日までの2週間、蔵王の清流に浸し、引き上げました。その後、蔵王おろしの寒風にさらし、自然乾燥。寒ざらしにすると、そばのアクが抜け、ほのかな甘みが増し、つるりとしたのど越しが楽しめます。

「寒ざらしそば」は、材木岩公園内の「小原なごみ茶屋」で約1,000食を提供。皆さんぜひご賞味ください。

